

国語科学習指導略案

3年1組 36名 指導者 赤石 裕 樹

本授業では、以下の検証を行うものである。

- クラゲチャートを用いて、登場人物の行動や会話などの叙述を関連付けて読むことは、登場人物の性格を想像して読む手立てとして有効であったか。

1 単 元 読んで、かんじたことを発表しよう「もうすぐ雨に」

2 指導計画（総時数 9 時間）

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
課題をつかむ	1 関連図書「海をあげるよ」を読み聞かせ、不思議な出来事が起こる本の世界を楽しませ、学習課題を設定し、学習計画を協議する。 ふしぎな出来事が起こる本のおもしろさが伝わるようなチラシを作ろう。 【関：チラシ作りに向けて、意欲的に本を読もうとしている。】	1
情報を基に考える	2 教材文「もうすぐ雨に」を読み、初発の感想を基に、チラシの表紙を作成する。 3 教材文「もうすぐ雨に」の組み立てを捉え、「始め」と「結び」を比較してチラシの「あらすじ」コーナーを作成する。 4 「ぼく」の行動や会話などの叙述を基に、「ぼく」の性格を捉え、チラシの「性格」コーナーを作成する。 5 場面ごとの「ぼく」の行動や気持ちを基に、「ぼく」の気持ちの変化を捉える。 【読：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の行動や会話などの叙述を基に、性格や気持ちの変化などを想像して読んでいる。】	1 2 1 1 (本時)
主体的に表現する	6 教材文「もうすぐ雨に」を読んで、「おもしろいな。」「すきだな。」と感じたことをまとめて、チラシの「かんそう」コーナーを作成する。 7 「ふしぎな出来事が起こるブックリスト」の中から、自分の好きなお話を選び、チラシを作成し、感想を発表する。 【読：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の行動や会話などの叙述を基に、性格や気持ちの変化などを想像して読んでいる。】 【読：文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方や考え方について違いがあることに気付いている。】 【言：感想を発表したり、紹介したりするために適切な言葉を用いている。】	1 2

3 本 時（5／9）

(1) 目 標

登場人物の行動や会話などの叙述を基に、登場人物の性格を想像して読むことができるようにする。

(2) 評価規準

「ぼく」の性格について、「ぼく」の各場面の行動や会話などの叙述を関連付けながら想像して読んでいる。 【読む能力】

(3) 指導に当たって

「つかむ・見通す」過程では、学習計画表やチラシ等で、学習の経過を振り返らせる。また、関連図書「海をあげるよ」の主人公の行動や会話を取り上げ、クラゲチャートを用いてそれらを関連付けることで、主人公の性格を読むことができることを確認し、本時の学習の見通しをもたせる。

「調べる」過程では、全文シートを用いて「始まり」から「ぼく」の行動や会話を取り上げたり、クラゲチャートを用いたりすることで、「ぼく」の行動や会話を複数関連付けて性格を考えることができるようにする。また、リテラチャー・サークル（話題型）の形態を取り入れて、それぞれが読んだ性格について発表し合うことで、一人一人の読みの違いやよさに気付かせ、それらを生かして「ぼく」の性格について自分の考えをまとめさせる。

「まとめる・いかす」過程では、振り返りのモデルを示すことで、リテラチャー・サークルによって、自分の読みが深まったことを実感させるとともに、次時への意欲付けを図る。

(4) 本時の展開 重点化するスキル [] 子どもの意識 ○指導の手立て ※評価

過程	時間	主 な 学 習 活 動 と 指 導 の 手 立 て
つかむ・見通す	8	1 前時までの学習を振り返る。 ・ 「ぼく」は、はじめは動物の気持ちを考えられなかったのに、最後には動物の気持ちを考えられるようになった。 2 学習のめあてを確かめる。 登場人物の性格を読むためには、どんな読み方をすればよいだろうか。 3 教師の説話を聞く。 ・ 登場人物の行動や会話には、性格が表れているのだな。行動や会話を手掛かりにして性格を読む。
調べる	30	4 「ぼく」の性格を読む。 関連付ける 話題：「ぼく」に、一番ぴったりの性格は、どんな性格だろう。 (1) 各自で、「ぼく」の行動や会話を基に、読んだ性格を書く。 【一人で：7分】 ・ どうしたらいいんだろう。 ・ ますますこまる——かえるもぼくも。 ・ さっと、まどだけしめた。 ※ 動物が苦手、おくびょう など (2) グループでそれぞれの考えを交流する。 【グループで：8分】 (3) グループで話し合ったことを全体に発表し、「ぼく」の性格を検討する。 【全体で：8分】 5 協同的な「学び合い」を通して、深まった読みを、「性格」コーナーに書く。 【一人で：5分】 小さなかえるに気が付いたり、遅刻しそうなのかえるを助けたり、「動物の言葉が分かればいいのになあ。」と言ったりしていることから、ぼくはやさしい性格だと思う。 6 本時の学習の振り返りを書く。 登場人物の行動や会話を、つなげて読むと、性格を読むことができる。 ・ 登場人物の行動や会話を基に、性格を想像して読むのは、楽しいな。 ・ 次に読書をするときには、登場人物の性格を読んでみよう。 ・ 自分の考えに、友達の考えを付け加えると、もっといい考えになったな。 7 次時の学習を確認する。 ・ 次は、「ぼく」にどんな出来事が起きて、「ぼく」がどんなふうになっただろうかを読んでいくぞ。 ○ 学習計画表やリーフレットを用いることで、本時の活動の見通しをもたせるようにする。 ○ 関連図書「海をあげるよ」の主人公の行動や会話を取り上げ、クラゲチャートの使い方を確認することで、一人での活動がスムーズに行うことができるようにする。 ○ 「始まり」に絞って「ぼく」の性格を読ませることで、焦点化された話合いを行うことができるようにする。 ○ 「ぼく」の性格を、「ぼく」の行動や会話を、複数関連付けて読むことができるようにするために、クラゲチャートを用意する。 ※ 「ぼく」の性格について、「ぼく」の「始まり」の行動や会話などの叙述を関連付けながら想像して読んでいる。 (ワークシートへの記述の観察・分析) ○ 行動や会話を、複数関連付けながら「ぼく」の性格を読むことができていない子どもには、性格を表す言葉一覧表や国語辞典を用いて、「ぼく」の性格を表すのに、ぴったりの言葉を考えさせるようにする。 ○ 行動や会話を、複数関連付けながら「ぼく」の性格を読むことができていない子どもには、会話を中心に、「ぼく」の性格を考えさせるようにする。 ○ リテラチャー・サークル(話題型)を取り入れることで、一人一人の読みに違いがあることに気付いたり、互いの読みのよさを認めたりすることができるようにする。 ○ 個や小集団の考えを全体で共有し、吟味することができるようにするために、板書にクラゲチャートを活用する。 ○ 振り返りのモデルを示すことで、協同的な「学び合い」によって、自分の読みが深まったことを実感できるようにする。 ○ 登場人物の性格を読むことが、文学的な文章の読み方の一つの方法であることを確認することで、今後の読書活動の際に、生かすことができるようにする。 ○ 「思考スキル」を活用したり、協同的な「学び合い」を行ったりしたことで、性格を読み深めることができたことを価値付け、次時への意欲付けを図る。
まとめる・生かす	7	